

町では地元での教育の魅力化につながる支援事業を実施しています。

支援1

●海外英語研修

町では夏休みを利用し、中高生を対象とした英語研修として、カナダバンクーバーへの10日間のホームステイを実施しています。
この研修は参加費の8割を町で負担しますので、少ない負担で貴重な経験を積むことができます（高校生は英検準2級必須）。
また、町内にサテライトオフィスを持つゾーホージャパンの協力により、高校生を対象としたサマーキャンプを実施します。
これはゾーホーの本社があるインドに2週間滞在するプログラミング研修で、成績優秀者は卒業後の社員採用も検討される可能性があります。



支援2

●公営塾

本年度より、川根高校生及び町内の中高生を対象とした公営塾を開講しました。現在60名をこえる利用登録がありますが、この塾は月額3,000円と比較的安価で受講できることに加え、川根高校すぐ近くの若者交流センター「奥流」で開講されているため、特に地元の中高生にとって利用しやすいのが特徴です。



支援3

●給付型奨学金

卒業後に町へ戻り、就職するなどといった条件を満たせば返済が不要になる給付型の奨学金制度を設定しています。
※詳細は教育総務課 ☎(58)2555 へお問い合わせください。



支援4

●学生向け寄宿舍

徳山の若者交流センター「奥流」、川根高校前の「南麓寮」、「崎平よすが苑」と3つの寄宿舍を用意しています。
主に川根留学生向けの寄宿舍となっていますが、「南麓寮」と「崎平よすが苑」については通学困難と認められる地元の生徒も利用可能となっており、現在は川根中学校出身の生徒が1名利用しています。



支援5

●サポートファミリー制度

川根留学生への支援として、親元を離れて生活する生徒に対し地域の案内をしたり相談に乗るなどして不安を解消する「サポートファミリー」制度があります。現在は8名の方にご協力いただいています。



川根高等学校の魅力化とその現状について

現在、川根高校では「川根留学生」として県内外からの生徒を積極的に受入れる取組をしています。

この取組は、平成25年に当時の校長先生が「このまま入学生が減少すると、この素晴らしい環境に恵まれた川根高校が衰退してしまう」という危機感を持たれ、県内のほぼすべての中学校を訪問し、次年度に2名の生徒を呼び込んできたのが始まりです。

当初は校長先生の発案で始まりましたが、その後、町が大きく関わり、現在様々な支援をしています。

しかし「県立高校なのになぜ町が支援をしているのか？」という疑問を持たれる方も多いかと思います。

川根地域の子どもの数が大きく減少している中、もし町が何もしなければ川根高校は間違いなく県の高校再編計画の対象となり、最悪の場合には廃校にもなりかねません。

静岡県に対しても、再三寮の建設や運営費の補助などの要望を重ねてきましたが、県は「特定の高校のみに支援することはできない」という姿勢を崩していません。

川根高校は、将来の人材育成や子育てのための重要な教育機関であるだけでなく、高校の部活動や地域での活動は町に大きな活力を与え、地元経済や雇用などにも大きな影響を及ぼしているなくてはならない存在です。

町では、川根高校をこの地域から絶対になくさないよう、これからも全力を挙げて町の将来のために支援していかねばならないと考えています。

【川根留学生の現状と今後の見込み】

※この表は平成30年4月当初の状態と、今後の見込みを示しているものです。

年度	学年	奥流		南麓	崎平	下宿		通学		合計			川高全生徒数
		男子	女子	男子	男子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	留学生総計	
29年度	1	7	2	8	0	0	0	0	0	15	2	17	41 (24)
	2	7	2	5	1	1	0	4	0	17	2	19	58 (39)
	3	1	3	3	0	0	2	0	0	4	5	9	47 (38)
	計	15	7	16	1	1	2	4	0	36	9	45	146 (101)
30年度	1	3	8	6(1)	5	0	0	0	0	14(1)	8	22	41 (19)
	2	2	2	7	6	0	0	0	0	15	2	17	41 (24)
	3	1	2	3	8	1	0	4	0	17	2	19	58 (39)
	計	6	12	16(1)	19	1	0	4	0	46(1)	12	58	140 (82)
31年度	1	8	5	3	9	0	0	0	0	20	5	25	49 (24)
	2	3	8	6(1)	5	0	0	0	0	14(1)	8	22	41 (19)
	3	2	2	7	6	0	0	0	0	15	2	17	41 (24)
	計	13	15	16(1)	20	0	0	0	0	49(1)	15	64	131 (67)

※平成31年度の数字については年度当初での見込み数。()内の数字は地元中学校からの生徒数。

平成30年度の生徒数の内訳は、全校生徒の約4割にあたる58名が川根留学生ですが、表の右側にある()内の数字は川根地域の3つの中学校からの生徒数です。

平成29年度までは地元の生徒数が留学生の数を上回っています。が、本年度は41名の入学生のうち留学生が22名となり、地元からの生徒数19名を上回りました。

今後も川根高校と町では、川根留学生とともに、地元の子どもたちには選ばれる高校を目指してまいります。

そのため、以上に高校の魅力化向上の取組を強化することに加え、今後増えていくと予想される留学生や、地元でも通学が困難となる生徒の寄宿舍等の確保が必要ですが、財政的な問題も大きく、下宿などの受入先も少ないのが現状です。